



開校記念日に伝統を振り返る ～天下の東中たれ～

校長 浅見 正史

10月13日(月)は開校記念日です。1947年(昭和22年)新学制発布に伴い、大宮市立第一中学校(大宮小学校校舎を併用)が創設され、1949年(昭和24年)大宮市立南中学校を分離し、大宮市立東中学校と校名が変更されました。1951年(昭和26年)10月13日、現在のこの地で新校舎落成式が挙行され、この日が開校記念日として制定されました。その校舎は、木造校舎と呼ばれ、1999年(平成11年)9月に、48年間親しまれた木造校舎が解体されました。

【創立35周年記念誌より】

「東中は東大に通ず、何事にも一番になれ、天下の東中たれ。」初代校長の小島保佐先生は口癖のように、この言葉を全校生徒全職員にいいきかせてきた。私たち東中に籍を置く者、老いも若きもみな肝に銘じ、東中の名声も天下にしめそうと一丸となり努力してきた。

東中は東大に通ず、東大の銀杏並木を東中にもつくるんだと、昭和26年度第5回卒業記念だと思いが、正門を挟んで道路ぞいに銀杏の苗木がずらりと植えられた。後に銀杏の並木が校歌(昭和29年制定)に取り入れられた。

「みどりの空に すくすくと そびえる銀杏 希望の姿・・・」

我が東中の歴史と伝統は、初代校長小島保佐先生が手塩にかけて育てあげた銀杏の木と共にあり、今もなおその成長はたゆみなく続けられ、すくすくと大空にむかって伸びている。



テニスコート横 銀杏
令和6年12月撮影

「天下の東中」、「天下」とはどういう意味なのか。それは、「どこにも負けない誇り」と「自分を高め続ける覚悟」だと思います。「天下」とは、全国一位になることだけではなく、誰よりも努力すること。誰よりも仲間を思いやること。誰よりも自分の可能性を信じることであります。

初代校長先生が「天下の東中たれ」と言い続けたのは、東中生に「一番を目指せ」と言いつつも、「自分の限界を決めるな」「挑戦し続けろ」という熱い思いが込められていると思います。

「天下の東中」の「天下」とは、生徒一人ひとりが、自分の人生を本気で考え、生きること。仲間とともに、未来を切り拓くこと。そして、東中の名を、誇りを持って背負うこと。さあ、胸を張って歩いていきましょう。君たちこそが、80年目に向かって「天下」をつくる東中生です！



お彼岸を過ぎて秋の気配 ～ 新人体育大会・合唱コンクールに向けて～

9月24日(水)の朝は肌寒く、大宮駅から東中へ歩いて出勤時、陽が当たる道を選んで歩きました。「暑さ寒さも彼岸まで」、23日(火)はお彼岸で、暦とおりでした。しっかりと体調管理をしてください。

さて、9月26日(金)から新人体育大会が始まっています。生徒会朝礼の壮行会は、各部長が大会に臨む意気込みを話し、リトルあさみチームから「チャ チャチャ(はい)、チャ チャチャ(はい)、チャ チャチャ チャチャ(東中)」激励の手拍子を送りました。東中生の健闘を祈ります！

また、10月14日(火)には合唱コンクールをRaiBoC Hallで開催します。練習時間が確保しにくい中、生徒たちはクラスの実行委員とパートリーダー、指揮者、伴奏者を中心に、心をつに、きれいなハーモニーが奏でられるよう取り組んでいます。ぜひ、当日の歌声を楽しみにしてください。